

博報堂生活総合研究所 生活者にきいた“2023年 生活気分”を発表

● 2023年の景気予想は「悪くなる」が過去最高を更新

- ・来年の「世の中の景気」は、「悪くなる」(44.9%)が「良くなる」(12.1%)を大幅に上回る
- ・来年の景気が「悪くなる」と思う理由は、「物価上昇」や「円安」の継続・加速が上位に

● 2023年にお金をかけたいのは ①旅行 ②貯金 ③外食

- ・「来年お金をかけたい」が「今年お金をかけた」の数値を大きく上回ったのは、「旅行」「貯金」の2つ

博報堂生活総合研究所は、2015年から毎年秋に、翌年の景況感などについて全国の20～69歳男女3,900人に予想してもらって調査を実施しています。このたび最新の調査を加え、“2023年 生活気分”としてまとめました。今回の結果では、昨年に続き今年の景気が「悪かった」が多数を占め、来年の景気でも「悪くなる」が過去最多を更新しました。また、来年は今年よりも「旅行」「貯金」などにお金をかけたいという意識が高まっています。コロナ禍の規制緩和による消費意欲の高まりと、物価上昇の影響から家計を守りたいという意識が混在している生活者像がみえてきました。

“2023年 生活気分”調査結果のポイント

2023年の景況感

今年の景気は「悪かった」が6割超で多数。来年の景気予想でも「悪くなる」が過去最多

- ・今年の「世の中の景気」は、「悪かった」が66.1%と前回調査(69.3%)より減少したものの、依然コロナ禍前より高い水準で推移。
- ・来年の「世の中の景気」は、「悪くなる」が44.9%と前回(20.2%)より+24.7ptと大幅に増加し、過去最多を更新。一方、「良くなる」(12.1%)は前回(29.9%)より-17.8ptと大幅に減少し、2年続いた増加傾向に歯止めがかかりました。
- ・来年の景気予想の理由(自由回答)を集計したところ、「悪くなる」と思う理由では「物価上昇の継続・加速」(41.5%)、「良くなる」と思う理由では「コロナ禍の収束・沈静化」(28.7%)がそれぞれトップとなりました。コロナ禍の収束により経済が好転することを期待する一方、物価上昇がそれを上回る影響を及ぼし、来年も景気が悪くなると考えている生活者が多いようです。
- ・また、来年の「自分の家計状態」予想は、「変わらない」(53.0%)が前回(67.0%)から-14.0ptと減った一方、「悪くなる」(36.8%)は、前回(18.9%)から+17.9ptと増加しています。

2023年
世の中の変化予想

今年の変化は「多かった」が4割。来年「多くなる」との予想も4割程度

- ・今年の「世の中の変化」は、「多かった」が前回調査から-11.1ptと減少で4割(39.8%)となり、その分「どちらともいえない」が+10.1ptと増加して5割(50.1%)となりました。
- ・来年の「世の中の変化」予想は、「多くなる」が前回から-2.8ptとやや減少して36.7%となり、2年連続で低下しました。
- ・来年「多くなる」と予想する変化(自由回答)をみると、「国際情勢の変化」(14.2%)や「自粛や規制の緩和」(10.1%)など、今年生じたポジティブ・ネガティブな変化それぞれが、さらなる変化を遂げるだろうと予想する声が多く挙げられました。

2023年に
お金をかけたいこと

1位「旅行」、2位「貯金」、3位「外食」。上位2項目では「今年お金をかけた」を上回る

- ・「来年お金をかけたいもの(全25項目)」の上位は、「旅行」(27.2%)、「貯金」(22.3%)、「外食」(19.5%)。そのうち上位2項目は、「今年お金をかけた」を上回っています。特に、「旅行」では来年と今年の差が+11.2ptと大きくなっています。
- ・他にも、7位「レジャー」(来年12.8%、今年7.5%、差+5.3pt)、8位「老後の暮らしの準備」(来年10.7%、今年6.8%、差+3.9pt)、6位「株など投資」(来年13.3%、今年10.9%、差+2.4pt)などで今年より来年の意向が高くなっています。
- ・一方、4位「ふだんの食事」は今年29.9%に対し、来年の意向は18.9%と低く、その差は-11.0ptとなっています。物価上昇の影響などで節約/貯蓄への意識が高まりつつも、コロナ禍の規制緩和によりソト向き消費への意欲は高い状態にあるようです。

2023年に
始めたい/やめたいこと

始めたいことは「運動・体操・筋トレ」、やめたいことは「無理しての付き合い」

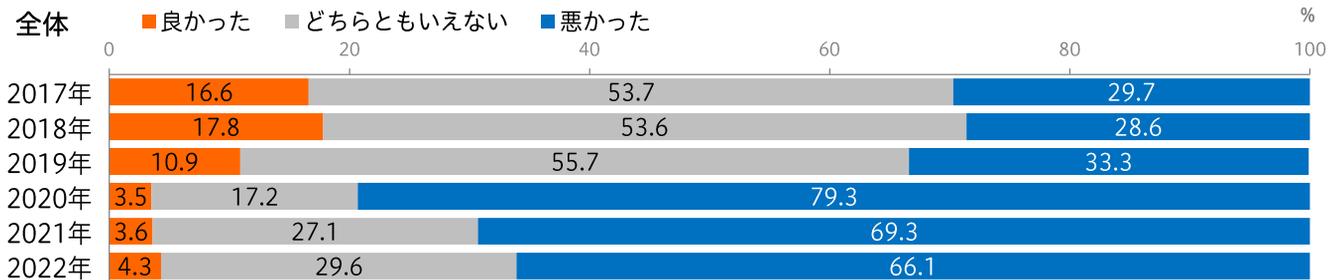
- ・「来年始めたいことがある」人は28.3%、「来年やめたいことがある」人は19.6%で、ともに前回から大きな変化はみられません。
- ・「始めたいこと」では、「運動・体操・筋トレ」(28.1%)がトップ、「投資・資産運用」(27.0%)、「副業」「貯蓄」(ともに24.3%)と続きます。
- ・一方、「やめたいこと」は「無理しての付き合い」(30.2%)、「無駄遣い・衝動買い」(30.1%)、「食べ過ぎ・飲み過ぎ」(27.5%)が上位に。来年は、体力の向上を図るとともに、無理や無駄を抑制したり、収入や蓄えを増やそうという生活者の意識がみえてきます。
- ・「始めたいこと」「やめたいこと」とともに、男性よりも女性の値が高いものが多く、特に「始めたいこと」の5位「趣味・習い事」、7位「ダイエット・食事制限」では男女差が10pt以上となっています。

今年の景気は「悪かった」が6割超で多数。来年の景気予想でも「悪くなる」が過去最高

- ・今年の「世の中の景気」は、「悪かった」が66.1%と前回調査(69.3%)より減少したものの、依然コロナ禍より高い水準で推移。
- ・来年の「世の中の景気」は、「悪くなる」が44.9%と前回(20.2%)より+24.7ptと大幅に増加し、過去最高を更新。一方、「良くなる」(12.1%)は前回(29.9%)より-17.8ptと大幅に減少し、2年続いた増加傾向に歯止めがかかりました。
- ・来年の景気予想の理由(自由回答)を集計したところ、「悪くなる」と思う理由では「物価上昇の継続・加速」(41.5%)、「良くなる」と思う理由では「コロナ禍の収束・沈静化」(28.7%)がそれぞれトップとなりました。コロナ禍の収束により経済が好転することを期待する一方、物価上昇がそれを上回る影響を及ぼし、来年も景気が悪くなると考えている生活者が多いようです。

今年の「世の中の景気」

今年の「世の中の景気」は、どうだったと思いますか(単一回答)



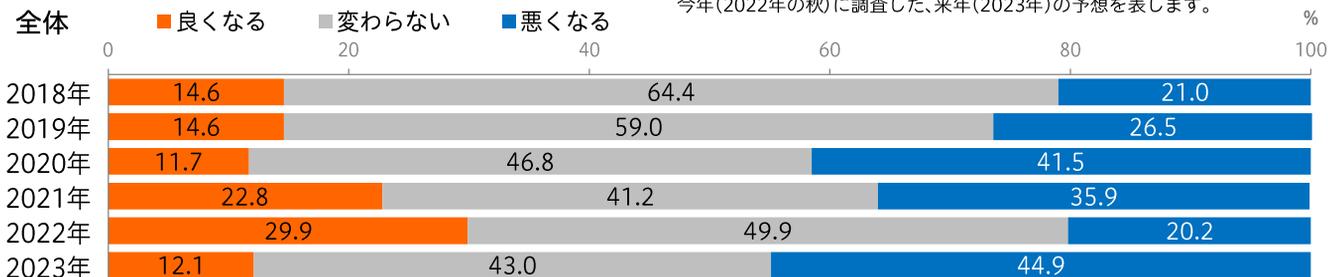
性別(2022年)



来年の「世の中の景気」予想

来年の「世の中の景気」は、今年と比べてどうなるとと思いますか(単一回答)

※西暦は生活者に予想してもらった「翌年」を指す。例えば、「2023年」の数値は今年(2022年の秋)に調査した、来年(2023年)の予想を表します。



性別(2023年)



「良くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5。%は「良くなる」と回答した人ベースで算出 (全体470人 男性241人 女性229人)

順位	理由	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男-女 (pt)	理由の具体例
1位	コロナ禍の収束・沈静化	28.7	27.0	30.6	-3.6	・来年は今年以上にコロナが落ち着くと予想しているため。(男性33歳・三重県) ・コロナの終息が見え始めているので。(女性55歳・宮城県)
2位	経済の好転	20.4	17.0	24.0	-7.0	・戦争が終わって物価なども正常に戻り、景気が良くなったと思ったからです。(男性29歳・岐阜県) ・コロナ感染者も減少し、経済も回っていくと思う。(女性41歳・福岡県)
3位	自粛や行動制限の緩和	15.7	10.4	21.4	-11.0	・コロナ禍の終息、インバウンドの再開(男性65歳・石川県) ・withコロナの方向で経済活動、制限なしの暮らしが戻ってきているから。(女性38歳・神奈川県)
4位	希望的観測	13.4	10.4	16.6	-6.2	・こだけ我慢しているのだから、必ず良くなって欲しい。(男性20歳・岐阜県) ・いろんな物事が動き出したので、良くなってほしいという思いがあります。(女性42歳・香川県)
5位	withコロナ・新しい生活様式の定着	11.3	7.1	15.7	-8.6	・コロナの生活に慣れて旅行とかもできるようになってきたから。(男性24歳・宮城県) ・底は過ぎたと思う。打開策が出来てきてウィズコロナが進むと思う。(女性42歳・静岡県)

「悪くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5。%は「悪くなる」と回答した人ベースで算出 (全体1,753人 男性918人 女性835人)

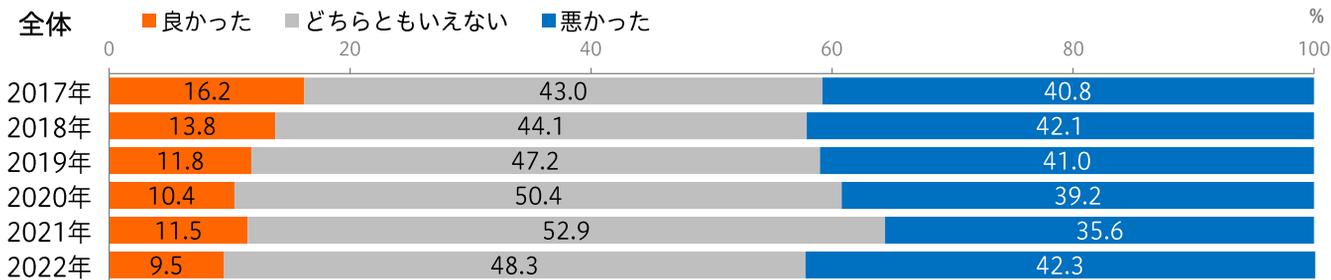
順位	理由	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男-女 (pt)	理由の具体例
1位	物価上昇の継続・加速	41.5	35.9	47.7	-11.8	・物価も下がることはなくこれからも上がり続けると思うから。(男性36歳・北海道) ・物価が高い。値上げ続きなので。(女性20歳・埼玉県)
2位	円安やインフレの継続・加速	22.5	23.3	21.6	+1.7	・更なる円安の進行の懸念。(男性61歳・静岡県) ・円安がさらにすすむ、景気のいい話がない。(女性54歳・大阪府)
3位	景気低迷の継続	20.1	18.7	21.7	-3.0	・経済力が低迷しているのが続くと思うから。(男性46歳・宮城県) ・世界情勢も国内の情勢も良くないから。(女性46歳・石川県)
4位	国際情勢への不安	19.7	21.2	18.1	+3.1	・戦争とコロナで見通しのつかない状況から、消費は落ち込むと思う。(男性29歳・新潟県) ・世界情勢が安定してない。(女性68歳・香川県)
5位	収入の減少	10.3	7.4	13.5	-6.1	・可処分所得は減少する一方。(男性54歳・石川県) ・年金額の減少で買い控える!(女性69歳・福岡県)

来年の家計予想は「良くなる」1割、「悪くなる」4割。悪くなる理由は「物価上昇による出費増加」

- 今年の「自分の家計状態」は、「良かった」が9.5%で前回調査からやや減少、「悪かった」は42.3%で前回から増加しました。
- 来年の「自分の家計状態」予想も、「良くなる」が10.2%と前回(14.1%)より減少し、過去6年間の最低値に。一方「悪くなる」は36.8%で、前回(18.9%)から倍増となり、2年続いた減少傾向に歯止めがかかりました。
- 来年の家計予想の理由(自由回答)を集計したところ、「良くなる」と思う理由では「就職や転職などによる改善」(26.2%)、「悪くなる」と思う理由では「物価上昇による出費増加」(46.2%)がそれぞれトップとなりました。この他、「収入の減少」(40.8%)、「景気低迷の継続」(8.5%)、「仕事の減少」(8.1%)など、厳しい家計状況を訴える意見が目立ちました。

今年の「自分の家計状態」

今年の「あなたの家計状態」は、どうだったと思いますか(単一回答)



性別(2022年)



来年の「自分の家計状態」予想

来年の「自分の家計状態」は、今年と比べてどうなると思いますか(単一回答)

※西暦は生活者に予想してもらった「翌年」を指す。例えば「2023年」の数値は今年(2022年の秋)に調査した、来年(2023年)の予想を表します。



性別(2023年)



「良くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5。%は「良くなる」と回答した人ベースで算出 (全体397人 男性220人 女性177人)

順位	理由	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男女差 (pt)	理由の具体例
1位	就職や転職などによる改善	26.2	22.3	31.1	-8.8	・転職して給与が増えているから。(男性24歳・北海道) ・在宅時間が増え、スキルなどを身につけたので新たに仕事に活かせる。(女性26歳・福岡県)
2位	収入の増加	25.7	26.8	24.3	+2.5	・コロナは収まりつつあるだろうし、年功による収入増加があるため。(男性30歳・香川県) ・仕事が忙しくなって、収入も増えそう。(女性63歳・神奈川県)
3位	希望的観測	11.6	5.9	18.6	-12.7	・今年あまりにも良くないので来年は良くなって欲しい。(男性46歳・北海道) ・今年はずっと休みのまま、来年は頑張ろうと思っているので。(女性55歳・東京都)
4位	経済の好転	6.0	8.2	3.4	+4.8	・ウクライナの見通しが立ちエネルギー価格が安定する。(男性61歳・千葉県) ・今資産運用もマイナスだが、経済が活発になり利益が出ると期待したい。(女性54歳・新潟県)
5位	家計の見直し	5.8	5.5	6.2	-0.7	・コロナが終息しなければ出費は少ないままで貯金が増えると思うから。(男性21歳・福岡県) ・お金のセミナー/FPさんへの相談により、家計状態はよくなると思う。(女性30歳・大阪府)

「悪くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5。%は「悪くなる」と回答した人ベースで算出 (全体1,436人 男性722人 女性714人)

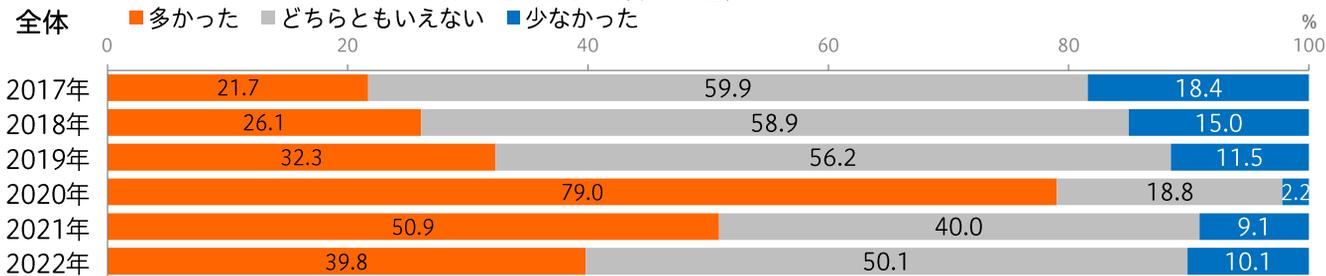
順位	理由	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男女差 (pt)	理由の具体例
1位	物価上昇による出費増加	46.2	43.8	48.6	-4.8	・おそらく給与は据え置き。しかし物価上昇は続くため。(男性49歳・埼玉県) ・物価高騰の影響で食費があがったり、電気代、ガス代も上がりそうだから。(女性20歳・広島県)
2位	収入の減少	40.8	36.6	45.1	-8.5	・会社の業績が景気に直結しやすく賞与が減りそう。(男性38歳・石川県) ・年金生活で年金は下がる一方なのに、物価は高くなり金額が追いつかない。(女性65歳・静岡県)
3位	景気低迷の継続	8.5	9.0	8.0	+1.0	・世間の景気が悪いのに、自分だけ裕福になれるわけがないから。(男性57歳・静岡県) ・最近右肩下がりに悪くなっていてるのでこのままずっと続くと思っている。(女性21歳・新潟県)
4位	仕事の減少	8.1	6.2	10.1	-3.9	・働き方改革による時間外労働の削減が進むから。(男性48歳・宮城県) ・今年の夏、これまでにないくらい主人の仕事がなかった。(女性41歳・大阪府)
5位	円安やインフレの継続・加速	4.2	6.2	2.1	+4.1	・円安や世界情勢のしわ寄せが家計に来ること、それに対する策が何も無い。(男性24歳・新潟県) ・円安による食料品値上げが家計を圧迫すると思うから。(女性39歳・宮城県)

今年の変化は「多かった」が4割。来年「多くなる」との予想も4割程度

- 今年の「世の中の変化」は、「多かった」が前回調査から-11.1ptの減少で4割(39.8%)となり、その分「どちらともいえない」が+10.1pt増加して、5割(50.1%)となりました。
- 来年の「世の中の変化」予想は、「多くなる」が前回から-2.8ptとやや減少して36.7%となり、2年連続で低下しました。
- 来年「多くなる」と予想する変化(自由回答)をみると、「国際情勢の変化」(14.2%)や「物価上昇の継続・加速」(14.1%)、「自粛や規制の緩和」(10.1%)など、今年生じたポジティブ・ネガティブな変化それぞれが、さらなる変化を遂げるだろうと予想する声が多く挙げられました。

今年の「世の中の変化」

今年、あなたからみた世の中のことで「変わった」と感じることは、多かったですか。(単一回答)



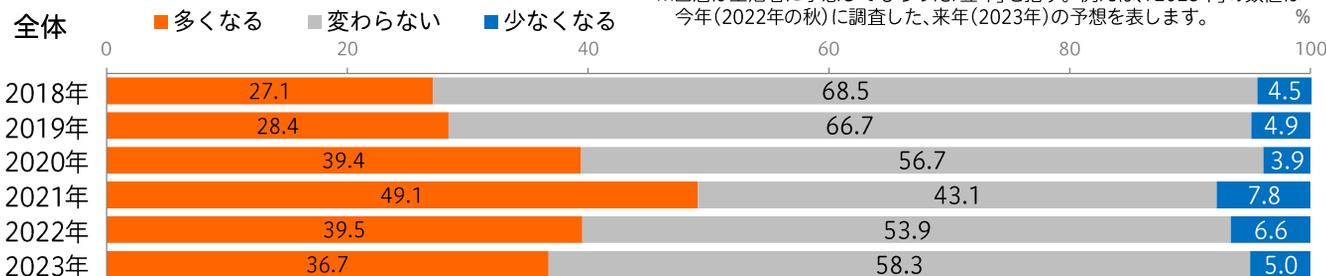
性別(2022年)



来年の「世の中の変化」予想

来年、あなたからみた世の中のことで「変わった」と感じることは、今年と比べて多くなると思いますか。(単一回答)

※西暦は生活者に予想してもらった「翌年」を指す。例えば、「2023年」の数値は今年(2022年の秋)に調査した、来年(2023年)の予想を表します。



性別(2023年)



来年「多くなる」と予想する変化

※自由回答を集計したトップ5。%は「多くなる」と回答した人ベースで算出(全体1,431人 男性726人 女性705人)

	全体	男性	女性	男-女	予想する変化の具体例
1位 国際情勢の変化	14.2	16.1	12.2	+3.9	・ロシアによる侵略で、世界が分断されていくような気がする。(男性49歳・京都府) ・コロナだけでなく、世界情勢をとりまく不安が大きいから。(女性33歳・愛知県)
2位 物価上昇の継続・加速	14.1	13.6	14.6	-1.0	・値上げが進み、今まで買えて当たり前だった物が買えなくなりそうだから。(男性30歳・新潟県) ・円安やコロナや戦争の影響で、物の値上げがまだ続く予感があるから。(女性62歳・福岡県)
3位 自粛や規制の緩和	10.1	6.5	13.9	-7.4	・海外旅行に気軽に行けるようになったり、コロナについて考えなくなる。(男性22歳・千葉県) ・海外からの水際対策が緩やかになり、街中で外国人を見る機会が増えそう。(女性50歳・石川県)
4位 景気後退	8.8	9.5	8.1	+1.4	・世界的なエネルギー危機、食糧危機、金融危機で、国際的な紛争が増える。(男性58歳・静岡県) ・当たり前だったことが当たり前ではなくなり、日本がどんどん貧困化する。(女性42歳・愛知県)
5位 withコロナ・新しい生活様式の定着	4.8	4.7	4.8	-0.1	・コロナ前に戻らないはずなので、新しいサービスや行動様式が生まれる。(男性54歳・千葉県) ・全部セルフレジとかになる。ひとが必要なくなる機会が増える気がする。(女性38歳・石川県)

(%) (pt)

1位「旅行」、2位「貯金」、3位「外食」。上位2項目では「今年お金をかけた」を上回る

- ・「来年お金をかけたいもの(全25項目)」の上位は、「旅行」(27.2%)、「貯金」(22.3%)、「外食」(19.5%)。そのうち上位2項目は、「今年お金をかけた」を上回っています。特に、「旅行」では来年と今年の差が+11.2ptと大きくなっています。
- ・他にも、7位「レジャー」(来年12.8%、今年7.5%、差+5.3pt)、8位「老後の暮らしの準備」(来年10.7%、今年6.8%、差+3.9pt)、6位「株など投資」(来年13.3%、今年10.9%、差+2.4pt)などで今年より来年の意向が高くなっています。
- ・一方、4位「ふだんの食事」は今年29.9%に対し、来年の意向は18.9%と低く、その差は-11.0ptとなっています。物価上昇の影響などで節約/貯蓄への意識が高まりつつも、コロナ禍の規制緩和によりソト向き消費への意欲は高まっているようです。

今年お金をかけた & 来年お金をかけたいもの(上位15位)

今年(2022年)、あなたがお金をかけたものはどれですか。
来年(2023年)、お金をかけたいと思うものはどれですか。(ともに複数回答)

※全25項目のうち、上位15位までを2023年意向を基準にランキング

全体



始めたいことは「運動・体操・筋トレ」、やめたいことは「無理しての人付き合い」

- ・「来年始めたいことがある」人は28.3%、「来年やめたいことがある」人は19.6%で、ともに前回調査から大きな変化はみられません。
- ・「始めたいこと」では、「運動・体操・筋トレ」(28.1%)がトップ、「投資・資産運用」(27.0%)、「副業」[貯蓄](ともに24.3%)と続きます。
- ・一方、「やめたいこと」は「無理しての人付き合い」(30.2%)、「無駄遣い・衝動買い」(30.1%)、「食べ過ぎ・飲み過ぎ」(27.5%)が上位に。来年は、体力の向上を図るとともに、無理や無駄を抑制したり、収入や蓄えを増やそうという生活者の意識がみえてきます。
- ・「始めたいこと」「やめたいこと」とともに、男性よりも女性の値が高いものが多く、特に「始めたいこと」の5位「趣味・習い事」、7位「ダイエット・食事制限」では男女差が10pt以上となっています。

来年始めたいことがある

来年、「思い切って始めてみたいこと」はありますか(単一回答)

	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男-女 (pt)
2018年	31.3	29.1	33.4	-4.3
2019年	30.8	29.1	32.6	-3.5
2020年	29.4	28.6	30.3	-1.7
2021年	27.5	28.0	27.0	+1.0
2022年	29.1	28.4	29.7	-1.3
2023年	28.3	27.5	29.1	-1.6

来年やめたいことがある

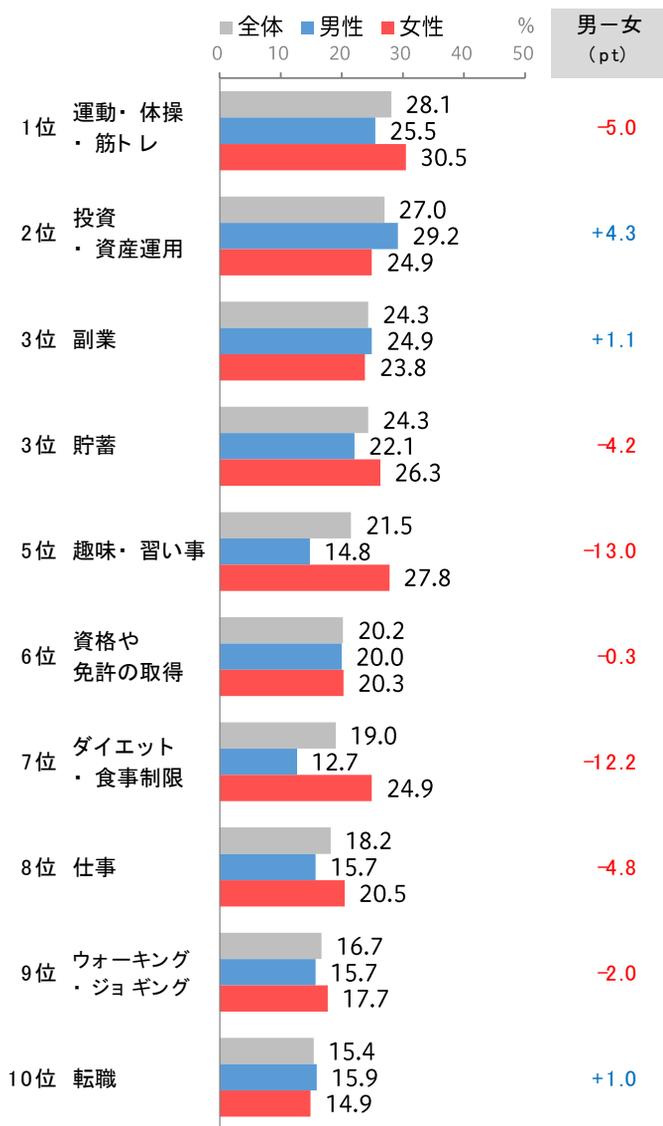
来年、「思い切ってやめたいこと」はありますか(単一回答)

	全体 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男-女 (pt)
2018年	20.7	19.5	21.8	-2.3
2019年	20.6	19.4	21.8	-2.4
2020年	19.8	20.2	19.4	+0.8
2021年	18.7	19.3	18.1	+1.2
2022年	19.4	19.6	19.3	+0.3
2023年	19.6	19.5	19.6	-0.1

来年始めたいこと(上位10位)

来年、「思い切って始めてみたいこと」は何ですか(複数回答)

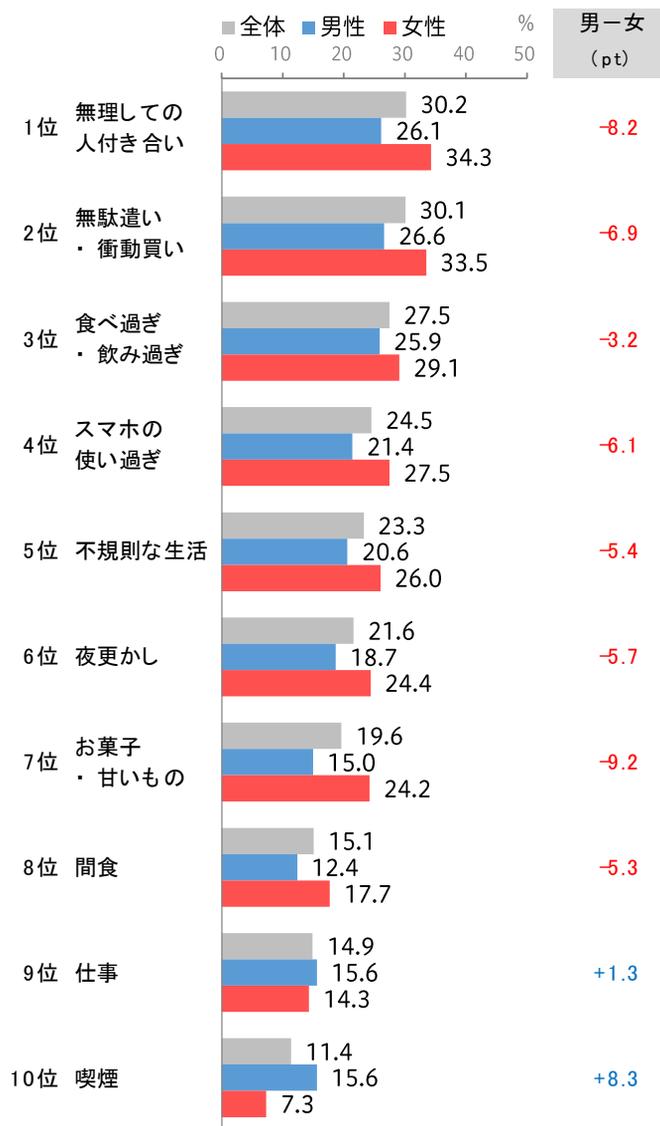
※2022年調査(2023年意向)
 ※始めたいことがある人へのみ質問(全体1,105人 男性534人 女性571人)
 ※数値は、始めたいことがある人ベースで算出
 ※全24行動のうち、上位10位までを全体を基準にランキング



来年やめたいこと(上位10位)

来年、「思い切ってやめたいこと」は何ですか(複数回答)

※2022年調査(2023年意向)
 ※やめたいことがある人へのみ質問(全体764人 男性379人 女性385人)
 ※数値は、やめたいことがある人ベースで算出
 ※全24行動のうち、上位10位までを全体を基準にランキング



“生活気分” 調査概要

生活者が予想する来年の景況感や生活気分、行動意欲などを時系列で比較する調査。
毎年秋に実施し、翌年の“生活気分”としてまとめています。

(2023年予想)

調査地域 全国11都市
首都40k m圏、名古屋40k m圏、阪神30k m圏、
札幌20k m圏、仙台20k m圏、新潟30k m圏、
金沢20k m圏、静岡20k m圏、広島20k m圏、
高松30k m圏、福岡30k m圏
調査手法 インターネット調査
調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,940人 女性1,960人
調査時期 2022年10月3日(月)～6日(木)
企画分析 博報堂生活総合研究所
実査集計 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

(2022年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,949人 女性1,951人
調査時期 2021年10月1日(金)～4日(月)

(2021年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,944人 女性1,956人
調査時期 2020年10月1日(木)～7日(火)

(2020年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,944人 女性1,956人
調査時期 2019年10月3日(木)～8日(火)

(2019年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,938人 女性1,962人
調査時期 2018年10月4日(木)～9日(火)

(2018年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,935人 女性1,965人
調査時期 2017年10月5日(木)～10日(火)

※調査対象、調査時期以外の調査設計は2023年予想と同じ

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社博報堂 広報室 玉・山田 koho.mail@hakuodo.co.jp 03-6441-6161